

ローマ 11 章に見る、メシアを信じるイスラエルの残りの民に対する神のご計画

2010 年 2 月 14 日 アシェル・イントレーター

イエシュア(イエス)を信じたばかりの 1978 年に、私はローマ 11 章について教え始めました。この御言葉の箇所は、イスラエルに対して神が定められたご計画を新しい契約から見た観点を表しています。当時わたしはこの啓示の奥深さによって感銘を受け、現在も今まで以上に感銘を受け続けています。

ユダヤの民の召しと選びは、2000 年前のメシアの誕生にて終わってしまったのではなく、現在もそして将来にも続いてゆくものであると、ローマ 11 章は教えています。それはさらに、イスラエルの成就されるべき目的が、ユダヤ人の政治家、兵士たち、ラビ、そして科学者たちがどんなに才能豊かだとしても、まだ救われていない彼らのうちにではなく、何よりもまずイスラエルのメシアを信じるユダヤの残りの民のうちに見られるのだと教えています。

この章の啓示に応答して、成人してからの人生の大半を、わたしは信者としてイスラエルでメシアニック共同体の建て上げと強化を支援するために捧げてきました。このメシアを信じる残りの民は、数においては未だに少数(現在 15,000 人程)ですが、神の御国においては多大な重要性を持っています。[黙示録 7:4-14 によると、この共同体が 144,000 人という数に達する時、終わりの時代の大艱難とリバイバルの最終段階が始まります。]

ローマ 11 章は、イスラエルのメシアを信じる残りの民に関して 3 つの壮大な約束を記しています。世界の目から見ると、この一見重要には見えない人々の一群は、実際以下に関して鍵となります：

1. 教会における回復
2. イスラエルにおけるリバイバル
3. 死者の復活

I. 教会における回復

諸国の教会は、イスラエルのオリーブの木に「**接ぎ木**」されていると描写されています(17 節)。現在イスラエルにいるメシアを信じる残りの民は、契約のつなぎ目であり、そこで教会がオリーブの木に接ぎ木されます。しかし教会は、信仰の文化的要素にだけ接ぎ木されるのではなく、「**オリーブの根の豊かな養分にあずかっている**」(17 節)ものとして接ぎ木されるべきなのです。これは、聖なる祭日を祝う以上のもので、これらの祝いに含まれる預言的啓示の回復です。1 世紀のメシアを信じる共同体という歴史的な文脈以上のもので、その共同体の復興と力なのです。

「もし根がきよければ、その枝もきよい」(16 節)。根に起こることは、枝にも影響を及ぼします。もし

イスラエルのメシアニック共同体が本来の使徒的共同体の聖さに戻ることができるなら、それは、世界中の信じる者たちに影響します。根に接ぎ木されるとは、最初の使徒的共同体につながれるということの意味です。それは、教会がその使徒的土台のすべてに回復されるということです。

その啓示のもう一つの要素は教会の一致です。ローマ 11 章で語られているオリーブの木の接ぎ木は、ヨハネ 17 章にある一致のためにとりなすイエシュアの祈りに関連しています。一致には2つの段階があります。一つは、霊における一致(使徒行伝 1:14)、二つ目は魂における一致(使徒行伝 4:32)です。霊の一致は祈り、イエシュアにある信仰、そして聖書の学びによって起こります。

魂の一致は、対話、協力、そして共通の遺産等を含む、より人間的段階で起こります。本来のメシアを信じる使徒的共同体と古代イスラエルの歴史は、真のキリスト者全てが共有する遺産を含みます。聖書時代のイスラエルと近代イスラエルとの同一化は、諸国の教会間に欠かすことのできない一致の連結をもたらします。現在イスラエルにいるメシアを信じるユダヤ人の残りの民は、この教会の共有遺産を管理することのできる唯一の存在です。この残りの民につなぎ合わされ、接ぎ木される中で、教会は、自身の一致のため契約のつなぎ目を見つけるでしょう。

II. イスラエルにおけるリバイバル

ローマ 11 章にはまた、イスラエルにおける国家的リバイバルのための偉大な約束も含みます。私たちの全コングリゲーションに掲げられている横断幕に記された招きの言葉は、「**イスラエル人は、すべて救われるであろう**」(ローマ 11:26)です。日々、より多くのイスラエル人たちがイエシュアについて聞いています。私たちのコングリゲーションは成長しています。メシアニックの共同体から流れる愛と純潔さの評判は、私たちに対して継続して向けられる迫害にも関わらず、一般のイスラエルの人々が見ている中で広まっています。おそらく、それも私たちに対する迫害ゆえなのでしょう。

イスラエルで前進しているメシアニック共同体の成長は、やがてすぐに起こる偉大なリバイバルの第一段階なのです。今現在、主婦、兵士、実業家、生徒等の生活において、いかにイエシュアの光が私たちの民を通して広がっているかを、毎日私たちは目撃しています。

III. 死者の復活

第三の約束は、再臨に関するものです。「もし彼らの捨てられたことが世の和解となつたとすれば、**彼らの受けいられることは、死人の中から生き返ることではないか。**」(ローマ 11:15)イエシュアは、イスラエルに住むユダヤの民が「**祝福あれ。主の御名によって来られる方に**」(マタイ 23:39)と叫び求めるまでご自分に戻ってくることはないと言われました。これらの前提条件は、ユダヤの民に対するイエシュアの契約的献身の一部であり、継続する「**選び**」の民として彼らの役割は確かなもの

であります。ご自分の民なくしては最初のキリスト降臨はなかったでしょう。再臨のときも、主はご自分の民なくしては戻って来られないでしょう。

もしユダヤ人の選びが古代イスラエル人と初代の使徒たちのうちに見られるのであれば、その選びは、どれほど終わりの時代の残りの民により明確に見られるのでしょうか。「しかし、もし、**彼らの罪過が世の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となったとすれば、まして彼らが全部救われたなら、どんなにかすばらしいことであろう**」(ローマ 11:12)。最高の出来事は、まだまだこれからです。

イエシュアが戻られるとき、死者のよみがえりが起こります。現在の時代は終わりに達します。地上において神の御国の千年王国が始まります。そのすべては、メシアを信じる残りの民が回復される結果として起こることです。イスラエルのメシアを信じる残りの民が完全に回復するとき、イエシュアは戻って来られ、死者はよみがえるでしょう。

真のキリスト者すべてに私たちは言います。「どうか私たちと共に立って下さい。あなたがたなくしては、私たちはそれをするには出来ません」と。イスラエルの回復は、教会の回復にかかっています。**「異邦人が全部救われるに至る時まで」**(ローマ 11:26)、私たちの民は、目が見えなく覆われたままなのです。あなたがたと共に立つとき、そしてあなたがたが私たちと共に立つとき、それはすべて預言されたとおりに起こるでしょう。